

遺伝性疾患を生むペットブーム

青毛のチワワは好き？それとも……
“bonsai犬”～小さくてハンドバッグにおさまる
ティーカッププードル～はいかが？

日本人ならきっと欲しがらるでしょう。

日本では、「珍犬」が高値を呼び、1万ドル(約120万円)を超える商品も。しかし、実は、同時に生まれた腹子の方が問題なのです。きょうだい犬に遺伝性障害が現われ、前足欠損とか、目鼻のない顔など、異常な個体が生まれてくるからです。

重い脳障害で、囲いの中を1日中走り回る犬がいます。また、骨が異常にもろいため、体内に溶け出している犬も。獣医師とブリーダーによれば、かくれた病気をもっていて、数年後に突然発症するケースも多いということ。

宮内さんは悲しみのどん底にいます——数年前に購入した2頭のボストンテリアのうち1頭が居間の床でけいれんを起こして死んでしまったからです。3月に、その子犬の1匹が同様の死を遂げ、他の1匹も失明してしまいました。

宮内さんが経験したのは、日本で広がりを見せながら、最近やっと注目を集め始めたばかりの問題です。日本の犬は、ひどい近親交配のために、世界でも異常に遺伝性疾患の発症率が高いといえます。欧米に比べて4倍以上の高率に上る場合もあります。

この種の障害は、抱きしめたくなるカワイイものをステータス・シンボルにしてしまう日本人特有の傾向が生む悲劇の結果です。また、一時的流行にわっと飛びつき、たえず何らかのブームに踊らされがちな国民性にも起因すると思われます。

相模原市の麻布大学獣医学部で遺伝性疾患が専門の陰山敏昭教授は警告しています。「日本人は異常なほど“ブーム”を好みます。しかし、忘れてはいませんか—犬はステータスシンボルである前に“生きもの”だということを」と。

急成長を続ける日本のペットビジネスは、市場規模が年間推定100億ドル(約1兆2千万円)を上回る巨大産業です。目下人気犬種のチワワは、消費者金融会社のテレビCMでスターになった犬の影響です。ジャパンケンネルクラブによれば、1990年代初めには、テレビドラマに出演したシベリアンハスキーが流行して、販売数はそれまでの年間数百頭から6万頭にまで急増し、その後、熱が冷めて売上げが落ち込むまでしばらく続いたとか。日本の狭苦しい住宅事情には不向きにもかかわらず、ハスキーブームが巻き起こったのです。

米国もまた特定犬種の急上昇を経験しています。州の中には、人気犬種を大量に作り出す「パピーミル」(子犬製造工場)に対処する目的で「パピーレモン法」(欠陥子犬法)を制定し、病気の犬を売らないように規制するところもあります。

(マーティン・ファックラー)

しかし、日本は特定犬種の販売の伸び方が極端すぎるとデーターが示しています。ケンネルクラブによれば、悪徳業者がブームにつけ込み、限られた数の親から子犬の大量生産に走っているとのこと。大半のブリーダーが健全な繁殖業に徹してきた中で、高利益という甘い餌につられる不埒な業者が増えて「パピーミル」の悲劇を拡大させているのです。

日本の「犬業界」に横行する危険な近親交配の広がりの陰にひそむ要因として、国民の「出生率減少」を挙げる獣医師、その他の専門家もいます。

子供を持たない女性と夫婦が増えるにつれ、飼い犬の数も増加しています。ペットは甘やかされ放題、大切な「家族」として子供に代わる地位を占めていると、専門家は指摘しています。最近10年間に日本の家庭で飼われる犬の頭数は倍増し、昨年1300万頭に達したとか。これは12歳以下の子供の数を超えていると(ペット雑誌の出版社)野生社の原田隆代表取締役は言っています。

原田氏によると、「子供が無いとか、少ない家庭は、犬をその隙間を埋める存在にしています。家族の一員であるためには、犬も、人間のようにユニークな個性を持たせる必要がある」のです。

(New York Times 2006年12月28日号から)

ピース・ウォーク・フォー・アニマルズ ～日用品化粧品動物実験反対デモ～

Peace Walk for Animals used in Experiments

動物たちの静かな、そして当たり前の平和を祈る全ての人へ。

<http://stopanimaltests.net/>

日時: 3月25日(日) Sunday March 25 from 1pm

午後1時集合、1時30分出発

集合場所: 南堀江公園

(地下鉄千日前線桜川駅5番出口より徒歩5分)

Meet at Minami Horie Park

near no.5 exit Sennichimae subway line

Sakuragawa station

デモコース: 南堀江公園～御堂筋～難波

お問い合わせ先: SATC大阪

〒542-0065 大阪市中央区中寺1-1-54

大阪社会福祉センターボランティアセンター内

e-mail: satc@wish.ocn.ne.jp

電話: 090-9860-2996(担当: 河中)

いつもあなたが使っている化粧品やシャンプーなどのために動物たちが犠牲になっていることを、あなたは知っていたでしょうか？

毎シーズンごとに新商品を開発している大手メーカー達、華やかでいかにも安全な製品であるかのように見えます。

しかし、その陰で動物たちの尊い命が犠牲になっています。動物たちは実験に使われ、苦しみながら死んでいたり、辛い時間を生き抜いたとしてもゴミのように殺され、捨てられています。実験に使われ、動物たちの毛が美しくなった、健康になったというのなら、それは素晴らしい製品でしょう。でも動物たちはもたえ苦しみ死んでいくのです。これが素晴らしい製品といえるでしょうか？これが人間が生きていく上で必要な実験だといえますか？このような実験がなぜ繰り返されるのか、本当に必要なのか、私たちと一緒に考えてみませんか？